

		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時		平成30年10月31日（水） 15：30～16：45			
部会名		研修部 授業実践部会		主任	今泉 美保
参加数		11 名	司会	須田 直之	記録 有馬 真貴子
研 修 内 容	「指導案検討・模擬授業を通して」 講師：教職員育成課指導主事 太田 理絵 先生 横浜市立鴨志田緑小学校校長 小倉 早苗 先生 提案：横浜市立上飯田小学校 秦 恵美子 先生 第6学年『全体の響きを聴き、声を合わせて歌おう』 中心教材「星の世界」				
	12月に行われる市一斉授業研究会の指導案検討を、模擬授業を通して行った。参加者が子ども役となり、実際に発問に答えたり、グループ学習で歌ったりして検討を行った。 ＜授業者から＞ ・子ども達に提示するめあてに、主題や評価規準をどう入れ込めばよいか。 ・グループ学習の進め方や、手立てとなる掲示が有効かどうか。 ・場の設定について ・前時をどこまでやればよいのか。 ＜講師の先生方から＞ ○教職員育成課指導主事 太田 理絵 先生 ・響き合いをたしかめるためには、どのパートも同じ言葉（ラなど）にした方がよい。 ・子どもが「バランス」をどう捉えるのか。響き合いでバランスも大切な要素だが、バランスについて取り上げると、子どもはバランスに流れてしまう。 ・主題と評価規準にねじれがある。評価規準は授業の内容に合わせて変えてよい。 ・響き合いは難しい。参考教材の「ふるさと」をやってみて出てきた課題を、本時の「星の世界」のめあてにするとよいのではないか。 ・時間配分を考える必要がある。練習時間の確保をする。 ・聴く視点についての資料の提示はよいが、既習したことを生かして子ども達から出るとよい。 ○横浜市立鴨志田緑小学校校長 小倉 早苗 先生 ・本時の主題は、6年生は3回目。「ふるさと」ではおそらく音取りで精一杯になることが予想されるので、「星の世界」では、3部合唱で歌ったときに「自分たちの歌、いいな!」と実感できるようにするとよい。子どもの最終的な姿を考える。 ・第2時では、音程、質の良い重なり、音色を大切に作る。 ・子ども達が主体的に気付き、歌声を改善していけるとよい。 ・グループ学習では、やることが決まりすぎている。自分たちで課題解決ができるよい。子ども達の主体性が生かせる手立て（既習事項など）があるとよい。子どもにもっと任せてもよいのではないか。 ・資料で提示されていた「身に付けたい力」は、教師がもっていればよい。すべて子どもに提示をしなくてもよいのではないか。どう子ども達におとすかが大事。 ・評価規準が古いままなので、新しい主題に合わせて考えていってよい。				

		音 楽 研 究 会			部 会 記 録	
日時		平成30年10月31日（水） 15：30～16：45				
部会名		研修部 授業実践部会			主任	今泉 美保
参加数		14 名	司会	岩本 育代	記録	田中 亜由美
研 修 内 容	「指導案検討・模擬授業を通して」					
	講師：横浜市立あざみ野第一小学校校長 藤馬 直子 先生					
	提案：横浜市立洋光台第一小学校 森野 淳 先生					
	第6学年『曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、響きのある声で歌おう』					
	中心教材「ふるさと」					
12月に行われる市一斉授業研究会の指導案検討を、授業者の方から流れを説明していた だき、参加者が随時気になる点などを質問する形で行った。						
＜授業者・参加者から＞						
・合唱と斉唱、どちらがよいか。						
→主題の内容や、授業者の意図から、今回は斉唱のほうが良い。合唱での響きに関する学習は 別の主題でねらっていく。						
・旋律はもちろん、歌詞の様子をしっかり想像し、その内容から活動を広げていけるようにし たいが、「工夫」とはどこまでか。						
→歌詞の内容から広げていく活動はとてもよい。ただ、前時までに旋律をしっかり歌えるよう にしておき、またどのように発想していけばよいか子どもが明確に理解している必要があ る。本時までの活動を経て、子どもたち自身に「もっとこうしたい」といった意欲が生まれ ているよう、授業の流れを作っていくとよい。						
・グループ活動の進める際、伴奏を録音したフロッピーオルガンやCDデッキを配置する予 定であるが、ほかにどのような手だてが有効か。						
→はじめの一音をとれるようにしておき、あとは子どもが自由に歌えるような設定のほうが よいのではないか。録音伴奏だとテンポを変えられないため、子どもたちの中から「ゆっく り歌いたい」などといった願いが生まれた際、対応しづらいのでは。						
・前時をどこまでやればよいのか。						
→一番をどのように歌わせたいのかということを、教師側の意図を明確にしながら指導して いくとよい。「この歌詞だから、だんだん強く歌っていきたい」「ここは、昔を思い出してい るようにゆっくりと歌いたい」など、具体的な方法なども併せて指導し、子どもたちだけの 活動となった際に手持無沙汰にならないようにしておく。						
・2番、3番の工夫をどのようにするか。						
→今回は歌詞へのイメージや思いが共有されていけばよいのではないかと。全グループが1曲 すべてを工夫するのではなく、4グループ中2グループは2番を、2グループが3番の工夫 をそれぞれ担当するかたちで、最終的に学級で工夫を共有するのもおもしろいのでは。						
＜講師の先生から＞						
○横浜市立あざみ野第一小学校校長 藤馬 直子 先生						
・グループ学習では、しぼったポイントを自分たちで課題解決ができるよい。子ども達の主体						

性が生かせる手立て（既習事項など）があるとよい。子どもにもっと任せてもよいのではないか。

- ・活動は、子どもの力を高めるためのものである必要がある。曲の感じ方は一人ひとり違うので、それをしっかりグループで、全体で共有する。それを認め合えるようにしておく。
- ・前時までの活動をしっかり子どものなかに落としておかないと、明確な活動がないまま本時が流れていってしまう。「歌詞を大事にしたい」「歌詞を手掛かりとする」ということを、しっかり伝えておくのが大切である。